

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

背板の前面側に外装材を装着してなる椅子の背凭れであって、外装材の上縁部及び下縁部の少なくとも一方に、前記背板における左右のコーナ部分の背面側を被う左、右のコーナ取付部を相互に離間させて設け、左のコーナ取付部と右のコーナ取付部とを連結帯により接続、離脱可能に連結していることを特徴とする椅子の背凭れ。

【請求項 2】

前記コーナ取付部が、張地の内面に硬質板を添え設けたものである請求項 1 記載の椅子の背凭れ。

【請求項 3】

前記外装材が、右のコーナ取付部と左のコーナ取付部との間に中間取付部が設けられており、右のコーナ取付部、左のコーナ取付部と中間取付部とをそれぞれ連結帯により接続、離脱可能に連結したものである請求項 1 又は 2 記載の椅子の背凭れ。

【請求項 4】

前記外装材が、その上縁部または下縁部の一方に、袋状の取付部を有している請求項 1、2 又は 3 記載の椅子の背凭れ。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、ヘッドレスト等を取付可能な椅子の背凭れに関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来、ヘッドレストやハンガー等のオプション部材を取付可能な椅子の背凭れに使用する外装材において、特許文献 1 に示すように背板の上端部に掛けるための袋状の収容部を備えているものが知られている。また同様に、背板の下端部に掛けるための袋状の収容部を備えた外装材も周知である。このように、外装材の上縁部または下縁部が袋状であると、背板に対する外装材の脱着が比較的容易であるために、背板のみで背凭れを構成する仕様と、背板に外装材を着けて背凭れを構成する仕様とのいずれかを選択して使用することが可能となる。

【特許文献 1】特開 2008 - 168151 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

しかし、このようなものであると、椅子の背凭れにヘッドレスト、ハンガー等を取り付ける場合や、背凭れに背支桿との取付部が設けられているものである場合には、それらの取付場所や取付方法に応じて外装材に特別な設計が必要となっていた。例えば、特許文献 1 においては、椅子の背凭れにハンガーを取り付けるために、袋状の外装材が掛かった背凭れの上端部は取付部として使用できず、袋状の外装材の掛かっていない背凭れの背面に取付部を有する態様を採らざるを得ない。このようにヘッドレスト、ハンガー等のオプション部材の取付場所によって外装材の形状を一意に決めなければならないという問題があった。

【0004】

そこで本発明は上記のような課題に着目したものであり、ヘッドレスト等の取付場所及び取付方法を限定することなく上縁部及び下縁部を比較的自由に使用することができる背凭れを提供することを目的としている。

【課題を解決するための手段】

【0005】

以上のような課題を解決するためになされた本発明に係る椅子の背凭れは、背板の前面側に外装材を装着してなる椅子の背凭れであって、外装材の上縁部及び下縁部の少なくとも一方に、前記背板における左右のコーナ部の背面側を被う左、右のコーナ取付部を相互

10

20

30

40

50

に離間させて設け、右のコーナ取付部と左のコーナ取付部とを連結帯により接続、離脱可能に連結していることを特徴とする。

【0006】

このようなものであれば、連結帯により左、右のコーナ取付部が接続、離脱可能に連結されているため比較的容易に背板に対して外装材を着脱可能とすることができる。外装材の上縁取付部に左、右のコーナ取付部を有していれば、背板の上端部のヘッドレスト、ハンガー等のオプション部材を取り付ける取付場所や取付方法によって外装材の形状を変更することなく外装材を使用することができる。また、外装材の下縁取付部に左、右のコーナ取付部を有していれば、背板の下端取付部の取付場所や取付方法によって外装材の形状を變形することなく外装材を使用することができる。

10

【0007】

さらに、コーナ取付部が、張地の内面に硬質板を添え設けたものであれば、張地のコーナ部の形状を一定に保つことができるので、背板のコーナ部への取付が容易となる。また、コーナ部の外観を良好なものとすることができるとともに、外装材のコーナ取付部における強度を確保することができる。

【0008】

また、外装材が、右のコーナ取付部と左のコーナ取付部との間に中間取付部をさらに設けており、右のコーナ取付部、左のコーナ取付部と中間取付部とをそれぞれ連結帯により接続、離脱可能に連結したものであれば、背板の上端部または下端部に取り付けられ得る取付部材の形状及び取付方法の影響を受けにくいため、背凭れの上縁部及び下縁部を比較的自由に使用することができる。また、中間取付部の存在によりコーナ部以外の場所でも外装材が背板に取り付けられることとなり、外装材の背板への接合具合が良好になる。

20

【0009】

さらに外装材が、その上縁部または下縁部のいずれかに一方に上記コーナ取付部を有しており、他方に袋状の取付部を有しているものであれば、その上端部または下端部においてオプション部材の取付や取付部材の設置を行わない椅子の背凭れに、比較的容易に外装材の端部を掛け止めることができる。

【発明の効果】

【0010】

本発明によれば、ヘッドレスト等の取付場所及び取付方法を限定することなく上縁部及び下縁部を比較的自由に使用することができる背凭れを提供することができる。

30

【発明を実施するための最良の形態】

【0011】

以下、本発明をシンクロチルト式の事務用回転椅子100に適用した場合の一実施形態につき、図面を参照して説明する。

【0012】

この椅子100は、図1ないし図4に示すように、脚1と、この脚1の上部に支持され水平旋回可能な支持基部2と、この支持基部2の上に配された座受3と、この座受3に保持された座4と、前記座受3下方から左右上方に延びて設けられた肘掛け10と、前記支持基部2に後傾動作可能に設けられた背支持体5と、この背支持体5に取り付けられた背凭れ6と、この背凭れ6の上端部に着脱可能に設けられるヘッドレスト8とを具備してなる。

40

【0013】

前記脚1は、脚ベース11と、脚ベース11の中心部に設けられた脚支柱12とを備えてなる。前記脚ベース11は、中心部に設けたハブ11aから脚羽根11bを放射状に突出させて設けたもので、前記脚羽根11b先端にキャスター11cをそれぞれ設けている。前記脚支柱12は、ガススプリングを主体に構成されたもので、上下方向に弾性的に伸縮し、所望位置でロックすることができるようにした通常のものである。

【0014】

前記支持基部2は、前記脚支柱12の上端部に取り付けられたハウジング21と、この

50

ハウジング 2 1 に剛結され前記背支持体 5 を後傾動作可能に支持する主軸 2 2 と、前記ハウジング 2 1 内に設けられ前記背支持体 5 の後傾動作に対して反発力を発生させる傾動反力発生機構（図示せず）とを具備してなる。前記傾動反力発生機構は、コイルスプリングやガススプリング等を用いた通常のものであるため、説明を省略する。

【0015】

前記座受 3 は、前記座 4 を保持するシェル状のもので、その前端側が前記支持基部 2 に前後動可能に取り付けられているとともに、その後端側が前記背支持体 5 の基端部に支持されている。

【0016】

前記肘掛け 1 0 は、前記座受 3 に取り付けられた肘支柱 1 0 1 と、前記肘支柱 1 0 1 の上端部に設けられた肘当て 1 0 2 とを具備してなる。左右の肘掛け 1 0 は、左右対称形状をなしている。

【0017】

前記背支持体 5 は、前記支持基部 2 の主軸 2 2 に後傾動作可能に支持された背支桿 5 1 と、この背支桿 5 1 の上端部に取り付けられた弾性横桿 5 2 とを具備してなる。前記背支桿 5 1 は、基端部を前記支持基部 2 の主軸 2 2 に取り付けられた下部背フレーム 5 1 b と、この下部背フレーム 5 1 b の先端に結合した上部背フレーム 5 1 a とを備えている。前記下部背フレーム 5 1 b は、金属製のもので、その外側がカバー 5 3 により覆われている。そのカバー 5 3 の外面は、前記上部背フレーム 5 1 a の外面に連続するように位置づけられている。前記上部背フレーム 5 1 a は、合成樹脂により一体成形されたもので、その上方は二股に分岐されている。前記弾性横桿 5 2 は、中間部二箇所を前記背支桿 5 1 の上端部に支持させた板ばね状のもので、その両端部で前記背凭れ 6 を支えている。

【0018】

前記背凭れ 6 は、背板 6 1 を主体に構成されたものであり、この背板 6 1 の前面に着脱可能に添え設けられた前当部材 6 3 と、これら背板 6 1 または前当部材 6 3 の前面に脱着可能に設けられた外装材 6 2 とを備えてなる。前記背板 6 1 は、背板本体 6 1 a とこの背板本体 6 1 a の左右両側部に設けた側端取付部 6 1 c と、前記背板本体 6 1 a の下端部に設けた下端取付部 6 1 b とを具備してなるもので、前記側端取付部 6 1 c を前記弾性横桿 5 2 の両端部に接続するとともに、前記下端取付部 6 1 b を前記背支桿 5 1 の下部背フレーム 5 1 b に取り付けている。

【0019】

前記背板本体 6 1 a は、合成樹脂により作られたもので、孔 6 1 d を有しない周縁枠部 6 1 a 1 と、この周縁枠部 6 1 a 1 に囲まれた中間面部 6 1 a 2 とを具備してなる。前記中間面部 6 1 a 2 は、複数の孔 6 1 d を設けた樹脂メッシュ領域 M と、孔 6 1 d を有しない樹脂シェル領域 S とを備えたもので、その樹脂メッシュ領域 M と樹脂シェル領域 S とを交互に配置している。具体的には、前記中間面部 6 1 a 2 の樹脂シェル領域 S は、水平なベルト状のもので前記周縁枠部 6 1 a 1 の対向部位を連結するように配されている。ベルト状をなす前記樹脂シェル領域 S は、上下方向に間隔を開けて複数本平行に配されており、これら樹脂シェル領域 S 間及び樹脂シェル領域 S と周縁枠部 6 1 a 1 との間に前記樹脂メッシュ領域 M がそれぞれ形成されている。前記樹脂メッシュ領域 M は、前記樹脂シェル領域 S よりも薄肉に形成されており、貫設された複数の円形の孔 6 1 d を有している。すなわち、前記樹脂シェル領域 S の前面と前記樹脂メッシュ領域 M の前面とは面一に形成されている一方、前記樹脂メッシュ領域 M の背面は、前記樹脂シェル領域 S の背面よりも凹んで設けられている。

【0020】

以下、図 5 ないし図 8 を参照して説明する。ここで図 5 は、図 2 における背板本体 6 1 a の前面に設けられた外装材 6 2 及び前当部材 6 3 を取り外した状態の椅子 1 0 0 の斜視図である。また、図 6 は、図 4 における A - A 線に沿う拡大断面図、具体的にはヘッドレスト 8 から背板本体 6 1 a にかけてヘッドレスト 8 の後脚部 8 1 c の幅方向中心を通過するように垂直に切断した断面図を表す。図 7 は、ヘッドレスト 8 及び前当部材 6 3 を装着

10

20

30

40

50

しない場合に外装材 6 2 が取り付けられる様子を表した断面図、及び図 8 は、背板 6 1 に取り付けられるヘッドレスト 8、前当部材 6 3 及び外装材 6 2 の分解斜視図を表す。

【0021】

前記前当部材 6 3 は、前記背板 6 1 と同じ合成樹脂により一体に形成されており、背板 6 1 を介してヘッドレスト 8 の後脚部 8 1 c と接続される部材本体 6 3 a と、この部材本体 6 3 a の上方に連続して設けられ前記外装材 6 2 の上端を掛けるための掛け止め縁部 6 3 b とを具備してなる。前記前当部材 6 3 の前面は面一である一方、その背面は前記部材本体 6 3 a が掛け止め縁部 6 3 b に比べて突出しており、この突出した部分は前記背板 6 1 の前面に沿った形状を有しているため、前記部材本体 6 3 a は、前記背板 6 1 の前面に脱着可能に添えて設けられる。また、前記部材本体 6 3 a には左右 1 ヶ所ずつ、後述する 10
ヘッドレスト 8 の 2 本の後脚部 8 1 c に対応する部分に前後に貫通するねじ孔 6 3 a 1 が設けられている。前記掛け止め縁部 6 3 b は、隙間を介して背板 6 1 の上縁部に対面し、その上縁部及び左右側縁上部が前記背板 6 1 の上端部及び左右側縁と同様の形状をなしている。

【0022】

前記外装材 6 2 は、クッション及び張地等を縫い合わせて一体に作られており、背板 6 1 前面を覆う外装材本体 6 2 a と、この外装材本体 6 2 a の上方に設けられ、前記背板 6 1 の周縁枠部 6 1 a 1 上端縁または前記前当部材 6 3 の掛け止め縁部 6 3 b に掛けられる上縁取付部 6 2 b と、前記外装材本体 6 2 a の下方に設けられ、前記背板 6 1 の周縁枠部 6 1 a 1 下端縁における左右コーナ部に掛けられる左、右のコーナ取付部 C 2、C 2 とを 20
具備してなる。

【0023】

前記外装材本体 6 2 a は、前記背板 6 1 の周縁枠部 6 1 a 1 の外周縁に沿った形状である。前記上縁取付部 6 2 b は、前記外装材本体 6 2 a の上部に対応した形状をなす 1 枚の張地が、前記外装材本体 6 2 a の上方に重なって設けられ、それらの上縁部が縫い合わされていることにより、下向きの開口を有する袋状をなしている。前記左、右の下縁コーナ取付部 C 2、C 2 は、前記外装材本体 6 2 a の下部に対応した左右 2 枚の対をなす張地が、前記外装材本体 6 2 a の下方左右にそれぞれに重なって設けられ、それらの下縁部が縫い合わされることにより、それぞれ右上方、左上方に開口を有している。前記下縁コーナ取付部 C 2、C 2 は袋状とはなっておらず、これら左右の下縁コーナ取付部 C 2、C 2 の 30
間には、背板 6 1 の下端取付部 6 1 b に対応する部分にスリット 6 2 c 1 が設けられているような状態となっている。前記スリット 6 2 c 1 部分の上方、すなわち左右の下縁コーナ取付部 C 2、C 2 における上端部分には、それら 2 つの下端コーナ取付部 C 2、C 2 を接続、分離可能に連結するための連結帯 6 2 c 2 が設けられている。連結帯 6 2 c 2 は、左の下縁コーナ取付部 C 2 に取着された左バンド 6 2 c 2 1 と、右の下縁コーナ取付部 C 2 に取着けされた右バンド 6 2 c 2 2 と、これら両バンド 6 2 c 2 1、6 2 c 2 2 を着脱可能に結合する図示しない止着要素とを具備してなる。前記右バンド 6 2 c 2 2 は、止着要素として弾性変形可能な凸部を有しており、前記左バンド 6 2 c 2 1 は、前記凸部に対応する凹部を有しており、これら凸部と凹部が係わり合うことによって、両バンド 6 2 c 2 1、6 2 c 2 2 が左右の下縁コーナ取付部 C 2、C 2 の離間距離に応じて所望の位置で 40
止着され得る。また、左右の下縁コーナ取付部 C 2、C 2 の張地の内面には、硬質板であるアクリル板 C 3 をそれぞれ添え設けている。

【0024】

前記ヘッドレスト 8 は、前記背板 6 1 に着脱可能に取付部分を設けられたベース 8 1 と、このベース 8 1 に支持され使用者の頭部を支えるヘッドレスト本体 8 2 とを具備してなる。

【0025】

前記ベース 8 1 は、合成樹脂により一体に形成されており、前記ヘッドレスト本体 8 2 に取り付けられるベース本体 8 1 a と、このベース本体 8 1 a から下方に延びる 4 本の前脚部 8 1 b と、この前脚部 8 1 b と平行に前記ベース本体 8 1 a から下方に延びる 2 本の 50

後脚部 8 1 c とを具備してなる。2 本の後脚部 8 1 c は左右対称に設けられ、それぞれその下部に、前記背板 6 1 に設けられた段部 6 1 a 3 に係わり合わせるための係わり合い部 8 1 c 1 を有している。前記後脚部 8 1 c の背面は面一に形成されている一方、その前面は、前記係わり合い部 8 1 c 1 として後脚部 8 1 c の上部よりも肉厚なものとしており、ヘッドレスト 8 にかかる荷重を支えている。さらに、それらの係わり合い部 8 1 c 1 における前記前当部材 6 3 に設けられたねじ孔 6 3 a 1 に対応した場所に、凹部 8 2 b 1 が設けられ、この凹部 8 2 b 1 に金属製のインサートナット N が成型されている。

【0026】

前記ヘッドレスト本体 8 2 は、前記ベース 8 1 と一体に形成され前記ベース本体 8 1 a の上方から連続する合成樹脂製のバックプレート 8 2 a と、このバックプレート 8 2 a の前面及び背面を覆うクッション及び張地から成る外装材本体 8 2 b とを具備する。当該外装材 6 2 は、椅子 1 0 0 の座 4 や背凭れ 6 に用いられる外装材本体 6 2 a と同様の材質や色彩とすることが好ましい。

【0027】

本実施形態では、前記背板 6 1 にヘッドレスト 8 のベース 8 1 を着脱可能に係わり合わせることによりヘッドレスト 8 を取り付けようとしている。具体的には、前記背板 6 1 に設けられた段部 6 1 a 3 にヘッドレスト 8 の後脚部 8 1 c を弾性変形を利用して着脱可能に係わり合わせ、さらに前記前当部材 6 3 と後脚部 8 1 c の係わり合い部 8 1 c 1 とを用いて前記背板 6 1 を前後に挟み、前記前当部材 6 3 の前方から後脚部 8 1 c まで貫通させたねじ B により緊締結合させている。

【0028】

次に、前記ヘッドレスト 8 の背板 6 1 への取り付け及び取り外しの際の操作及び各部の作用を示す。

【0029】

すなわち本実施例に係るヘッドレスト 8 の取り付けは、ヘッドレスト 8 が取り付けられる背板 6 1 が、周縁枠部 6 1 a 1 とその周縁枠部 6 1 a 1 に囲まれる中間面部 6 1 a 2 との境界に段部 6 1 a 3 を有し、その中間面部 6 1 a 2 に複数の孔 6 1 d を有する樹脂メッシュ領域 M と孔 6 1 d を有しない樹脂シェル領域 S とを備え、前記背板 6 1 の背面における中間面部 6 1 a 2 の樹脂メッシュ領域 M と樹脂シェル領域 S との境界にも段部 6 1 a 3 が形成されているものを用いて、まず、背板 6 1 の上縁部に向かってヘッドレスト 8 の前脚部 8 1 b と後脚部 8 1 c とが前記背板 6 1 を挟み込むように上方から装着する。

【0030】

次に、前記背板 6 1 の段部 6 1 a 3 に、前記ベース 8 1 を構成している部材や背板 6 1 を構成している部材の一時的な弾性変形を利用して係わり合い部 8 1 c 1 を係わり合わせる。その際、前記係わり合い部 8 1 c 1 はその上端部が周縁枠部 6 1 a 1 と中間面部 6 1 a 2 の樹脂メッシュ領域 M との境界に係わり合い、その下端部が樹脂メッシュ領域 M と樹脂シェル領域 S との境界に係わり合うことで、上下方向に一定以上の力が加わらない限りヘッドレスト 8 を抜け止めし得る構成としている。

【0031】

さらに、前記ヘッドレスト 8 を装着した背板 6 1 の前面に前当部材 6 3、具体的には前当部材 6 3 の部材本体 6 3 a が背板 6 1 に接するように添えられることで、背板 6 1 を挟んでヘッドレスト 8 及び前当部材 6 3 が配置されることになる。その後、その前当部材 6 3 に設けられた 2 ヶ所のねじ孔 6 3 a 1 に前当部材 6 3 の前面からねじ B を差し込み、樹脂メッシュ領域 M に設けられた孔 6 1 d を通って後脚部 8 1 c に設けられたインサートナット N まで貫通させねじ止めする。これにより、前当部材 6 3、背板 6 1 及びヘッドレスト 8 が緊締結合される。

【0032】

一方、前記ヘッドレスト 8 を背板 6 1 から取り外す際には、ねじ止めを解除するとともに、前当部材 6 3 を取り外し、前記ヘッドレスト 8 の係わり合い部 8 1 c 1 を前記背板 6 1 から離間させるように後脚部 8 1 c に力を加え、係わり合い部 8 1 c 1 と段部 6 1 a 3

との係わり合いを解除させる。そして、その状態でヘッドレスト 8 を上方に移動させることにより取り外し操作を行う。

【0033】

以上のような前記ヘッドレスト 8 の背板 6 1 への取り付け及び取り外しの操作をすることにより、本実施例に係る椅子 100 の仕様として以下の 3 つが考えられる。

【0034】

1 つ目の仕様（以下、「第一仕様 X」と呼ぶ。）は、図 9 に示すように前記背板 6 1 のみで背凭れ 6 を構成する。つまり、外装材 6 2、ヘッドレスト 8 及び前当部材 6 3 のいずれも装着することなく、背板 6 1 のみで背凭れ 6 を構成する。よって、この第一仕様 X においては、前記背板 6 1 の樹脂シェル領域 S 及び樹脂メッシュ領域 M 及びこれらに設けられた凹部 8 2 b 1 や孔 6 1 d によって形成される模様が見える。

10

【0035】

2 つ目の仕様（以下、「第二仕様 Y」と呼ぶ。）は、図 10 に示すように、前記背板 6 1 の前面に外装材 6 2 を取り付けた状態、具体的には、外装材 6 2 の上縁取付部 6 2 b を該背板 6 1 の上縁部に掛止させて構成する。第二仕様 Y は、前記第一仕様 X にその背板 6 1 の前面を覆う外装材 6 2 を装着したものであり、外装材 6 2 を装着することでより使用者の背中にフィットさせることができるとともに、外装材 6 2 の色彩や模様によっては、第一仕様 X の見た目とは異なる印象を与えることができる。つまり、第一仕様 X で視認できた樹脂シェル領域 S 及び樹脂メッシュ領域 M によって形成される模様は見えなくなる。

【0036】

3 つ目の仕様（以下、「第三仕様 Z」と呼ぶ。）は、図 2 に示すように、前記背板 6 1 の上縁部に前記ヘッドレスト 8 を装着するとともに該背板 6 1 の前面に外装材 6 2 をその上縁取付部 6 2 b を前記前当部材 6 3 に掛止させて構成する。第三仕様 Z は、前記第一仕様 X にヘッドレスト 8 及び前当部材 6 3 を上述した取り付け方法によって取り付けした後、背板 6 1 下端部から前当部材 6 3 の掛け止め縁部 6 3 b にかけて外装材 6 2 を装着したものであり、第二仕様 Y で背板 6 1 の上縁部に掛け止めていた外装材 6 2 の上端取付部をそのまま前当部材 6 3 の掛け止め縁部 6 3 b に適用するものである。

20

【0037】

以上のような構成とすることにより、本実施形態に係る椅子 100 の背凭れ 6 は、図 11 に示すように、背板 6 1 の前面側に外装材 6 2 を装着してなる椅子 100 の背凭れ 6 であって、外装材 6 2 の下縁部に、前記背板 6 1 における左右のコーナ部分の背面側を被う左、右の下縁コーナ取付部 C 2、C 2 を相互に離間させて設け、左の下縁コーナ取付部 C 2 と右の下縁コーナ取付部 C 2 とを連結帯 6 2 b 2 により接続、離脱可能に連結しているので、比較的容易に背板 6 1 に対して外装材 6 2 を着脱可能とすることができる。すなわち、左右のバンド 6 2 b 2 1、6 2 b 2 2 を離脱させた状態で外装材 6 2 を背板 6 1 に装着し、しかる後にバンド 6 2 b 2 1、6 2 b 2 2 同士を所望の緊張状態で接続することにより外装材 6 2 の装着が完了する。また、外装材 6 2 の下縁取付部 6 2 c に左、右の下縁コーナ取付部 C 2、C 2 を有しているので、背板 6 1 の下端取付部 6 1 b が背板 6 1 の中央下端部から一体に突出して設けられているものであるにもかかわらず、外装材 6 2 を装着することができる。さらに、同じ外装材 6 2 を用いて、背板 6 1 の下端取付部 6 1 b を有しない背板 6 1 にも適用することができる。

30

40

【0038】

さらに、前記下縁コーナ取付部 C 2、C 2 が、張地の内面にアクリル板 C 3 を添え設けたものであるので、張地のコーナ部の形状を一定に保つことができ、背板 6 1 のコーナ部への取付が容易である。また、コーナ部の外観を良好なものとすることができるとともに、外装材 6 2 の下端コーナ取付部 C 2、C 2 における強度を確保することができる。

【0039】

また、前当部材 6 3 に上縁取付部 6 2 b を掛け止めるようにしている本実施形態においては、ヘッドレスト 8 の取付場所や取付方法の影響を受けずに外装材 6 2 の形状を決定することができるので、前記外装材 6 2 の上縁取付部 6 2 b を袋状として、背凭れ 6 に比較

50

的容易に外装材 6 2 の端部を掛け止めることができるようにしている。

【0040】

なお、本発明は以上に述べたような実施形態に限らず種々変更可能である。

【0041】

例えば、本発明に係る他の実施形態として、図 1 2 に示すように、下縁取付部 6 2 c のみならず、上縁取付部 6 2 b にも左、右の上縁コーナ取付部 C 1、C 1 を有するものが考えられる。

【0042】

前記外装材本体 6 2 a は、前記背板 6 1 の周縁枠部 6 1 a 1 の外周縁に沿った形状である。前記上縁コーナ取付部 C 1、C 1 は、前記外装材本体 6 2 a の上部に対応した左右 2 枚の対をなす張地が、前記外装材本体 6 2 a の上方左右にそれぞれ重なって設けられ、それらの上縁部が縫い合わされることにより、それぞれ右下方、左下方に開口を有している。なお、前記上縁コーナ取付部 C 1、C 1 は袋状とはなっておらず、これら左右の上縁コーナ取付部 C 1、C 1 の間には、背板 6 1 のヘッドレスト 8 の後脚部 8 1 c に対応する部分にスリット 6 2 b 1 が設けられているような状態となっている。前記スリット 6 2 b 1 部分の下方、すなわち左右の上縁コーナ取付部 C 1、C 1 における下端部分には、それら 2 つの上縁コーナ取付部 C 1、C 1 を結合するための連結帯 6 2 b 2 が設けられている。連結帯 6 2 b 2 は、左の上縁コーナ取付部 C 1 に装着された左バンド 6 2 b 2 1 と、右の上縁コーナ取付部 C 1 に装着された右バンド 6 2 b 2 2 と、これら両バンド 6 2 b 2 1、6 2 b 2 2 を着脱可能に結合する図示しない止着要素とを具備してなる。前記右バンド 6 2 b 2 2 は、止着要素として弾性変形可能な凸部を有しており、前記左バンド 6 2 b 2 1 は、前記凸部に対応する凹部を有しており、これら凸部と凹部が係わり合うことによって、両バンド 6 2 b 2 1、6 2 b 2 2 が左右の上縁コーナ取付部 C 1、C 1 の離間距離に応じて所望の位置で止着され得る。一方、下端取付部 6 1 c においても、前記左、右の下端コーナ取付部 C 2、C 2 を有しており、それぞれ右上方、左上方に袋状となっていない開口を有している。これら左右の下縁コーナ取付部 C 2、C 2 における上端部分には、それら 2 つの下端コーナ取付部 C 2、C 2 を結合するための結合帯 6 2 c 2 が設けられている。連結帯 6 2 c 2 は、左の下縁コーナ取付部 C 2 に装着された左バンド 6 2 c 2 1 と、右の下縁コーナ取付部 C 2 に装着された右バンド 6 2 c 2 2 と、これら両バンド 6 2 c 2 1、6 2 c 2 2 を着脱可能に結合する図示しない止着要素を具備してなる。前記右バンド 6 2 c 2 2 は、止着要素として弾性変形可能な凸部を有しており、前記左バンド 6 2 c 2 1 は、前記凸部に対応する凹部を有しており、これら凸部と凹部が係わり合うことによって、両バンド 6 2 c 2 1、6 2 c 2 2 が左右の下縁コーナ取付部 C 2、C 2 の離間距離に応じて所望の位置で止着され得る。また、左、右コーナ取付部 C 1、C 2 の張地の内面には、アクリル板 C 3 をそれぞれ添え設けている。

【0043】

このようなものであれば、背板 6 1 の前面側に外装材 6 2 を装着してなる椅子 1 0 0 の背凭れ 6 であって、外装材 6 2 の上端部及び下端部の両方に、前記背板 6 1 における左右のコーナ部分の背面側を被う左、右のコーナ取付部 C 1、C 2 をそれぞれ相互に離間させて設け、左のコーナ取付部 C 1、C 2 と右のコーナ取付部 C 1、C 2 とを結合帯 6 2 b 2、6 2 c 2 により接続、離脱可能に連結しているので、比較的容易に背板 6 1 に対して外装材 6 2 を着脱可能とすることができる。また、外装材 6 2 の上縁取付部 6 2 b にも左、右の上縁コーナ取付部 C 1、C 1 を有しているので、背板 6 1 の上端部にヘッドレスト 8 を取り付ける仕様においても、外装材 6 2 を装着することができる。さらに、同じ外装材 6 2 を用いて、ヘッドレスト 8 を取り付けていない仕様の背板 6 1 にも適用することができる。

【0044】

また、さらに他の実施例としては、図 1 3 に示すように、外装材 6 2 の上縁取付部 6 2 b に左、右の上縁コーナ取付部 C 1、C 1 を設け、さらに上縁中間取付部 C 1 1 を有するものが考えられる。

【0045】

前記外装材本体62aは、前記背板61の周縁枠部61a1の外周縁に沿った形状である。前記上縁コーナ取付部C1、C1は、前記外装材本体62aの上部に対応した左右2枚の対をなす張地が、前記外装材本体62aの上方左右にそれぞれ重なって設けられ、それらの上縁部が縫い合わされることにより、それぞれ右下方、左下方に開口を有している。また、上縁中間取付部C11は、前記左右の上縁コーナ取付部C1、C1の間に配置されるほぼ矩形の1枚の張地が、前記外装材本体62aの上方中央に重なって設けられ、それらの上縁部が縫い合わされることにより、左右と下方に開口を有している。なお、前記上縁コーナ部C1、C1及び上縁中間取付部C11は袋状とはなっておらず、これら左右の上縁コーナ取付部C1、C1と上縁中間取付部C11との間には、ヘッドレスト8等のオプション部材の取付部に対応する部分にスリット62b1、62b1が設けられているような状態となっている。前記スリット62b1、62b1部分の下方、すなわち左右の上縁コーナ取付部C1、C1及び上縁中間取付部C11における下端部分には、それら上縁取付部62b同士を結合するための連結帯62b2が設けられている。連結帯62b2は、左の上縁コーナ取付部C1に取着された左バンド62b21と、右の上縁コーナ取付部C1に取着された右バンド62b22と、これら両バンド62b21、62b22を着脱可能に結合する図示しない止着要素とを具備してなる。前記左右バンド62b21、62b22及び上縁中間取付部C11は、止着要素として面ファスナを有しており、左バンド62b21と中間取付部C11、及び右バンド62b22と中間取付部C11とが面ファスナによって左右の上縁コーナ取付部C1、C1の離間距離に応じて所望の位置で止着され得る。一方、下縁取付部62cは、前記外装材本体62aの下部に対応した形状をなす1枚の張地が、前記外装材本体62aの上方に重なって設けられ、それらの下縁部が縫い合わされていることにより、上向きの開口を有する袋状をなしている。また、左、右の上縁コーナ取付部C1、C1の張地の内面には、アクリル板をそれぞれ添え設けている。

【0046】

このようなものであれば、前記外装材62が、右の上縁コーナ取付部C1と左の上縁コーナ取付部C1との間に上縁中間取付部C11が設けられているので、ヘッドレスト8の取付部を避けて外装材62を背板に取り付けることができるとともに、上縁中間取付部C11の存在によりコーナ部以外の場所でも外装材62が背板61に取り付けられることとなり、外装材62の背板61への接着具合が良好になる。さらに、同じ外装材62を用いて、ヘッドレスト8を取り付けていない仕様の背板61にも適用することができる。

【0047】

また、下端取付部61bを有していない本実施形態においては、下端取付部61bの影響を受けずに外装材62の形状を決定することができるので、前記外装材62の下縁取付部62cを袋状として、背凭れ6に比較的容易に外装材62の端部を掛け止めることができるようにしている。

【0048】

なお、前記中間取付部は、1枚に限らず複数枚であってもよい。また、背凭れ6の上縁に限らず背支桿51との取付部の位置や形状等によっては、中間部は、下端に設けてもよい。さらに、前記中間取付部、各コーナ取付部は外装材本体62aと一体に作られてもよい。

【0049】

以上、本実施形態について詳述したが、本発明は上記実施形態に限定されるものではなく、その他各部の具体的構成は、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で種々変形が可能である。

【図面の簡単な説明】

【0050】

【図1】本発明の実施形態に係る椅子を示す後方斜視図。

【図2】同実施形態の前方斜視図。

【図 3】同実施形態の側面図。

【図 4】同実施形態の背面図。

【図 5】本発明の実施形態における外装材及び前当部材を外した状態を示す分解斜視図。

【図 6】同実施形態に係る椅子を示す A - A 線断面図。

【図 7】同実施形態に係る椅子の第二仕様における図 6 に対応する断面図。

【図 8】本発明の実施形態における外装材、前当部材及びヘッドレストを外した状態を示す分解斜視図。

【図 9】同実施形態に係る第一仕様の椅子を示す斜視図。

【図 10】同実施形態に係る第二仕様の椅子を示す斜視図。

【図 11】同実施形態に係る椅子の背凭れを示す背面図。

【図 12】本発明の他の実施形態に係る椅子の背凭れを示す背面図。

【図 13】本発明のさらに他の実施形態に係る椅子の背凭れを示す背面図。

【符号の説明】

【0051】

100…椅子

6…背凭れ

61…背板

62…外装材

62b2、62c2…連結帯

C1、C2…コーナ取付部

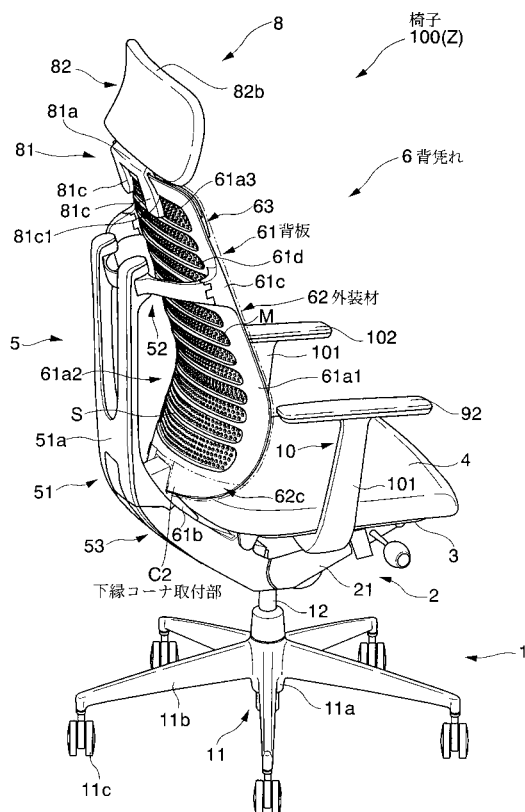
C11…中間取付部

C3…硬質板

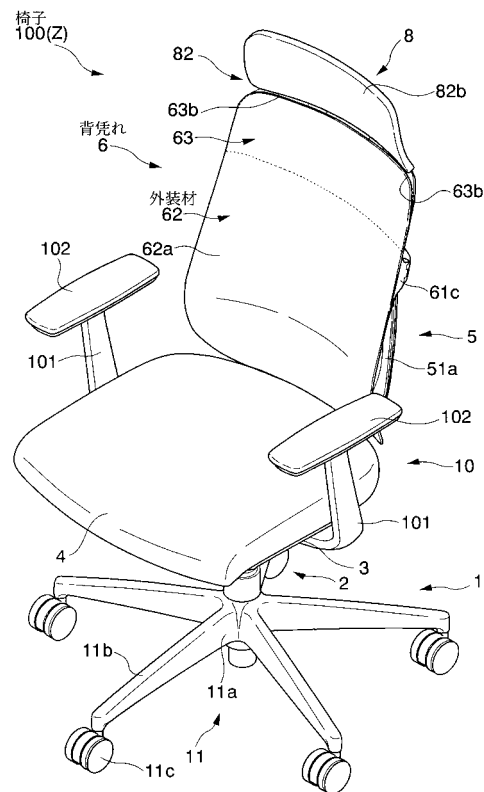
10

20

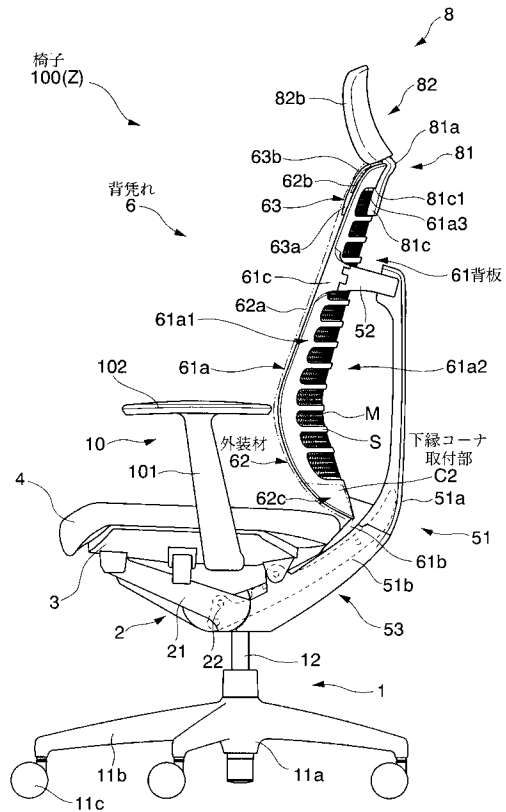
【図 1】



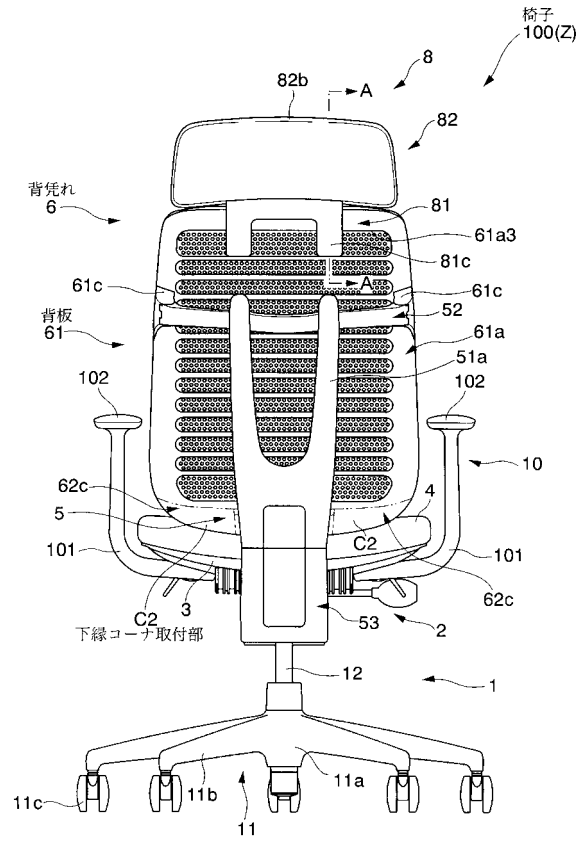
【図 2】



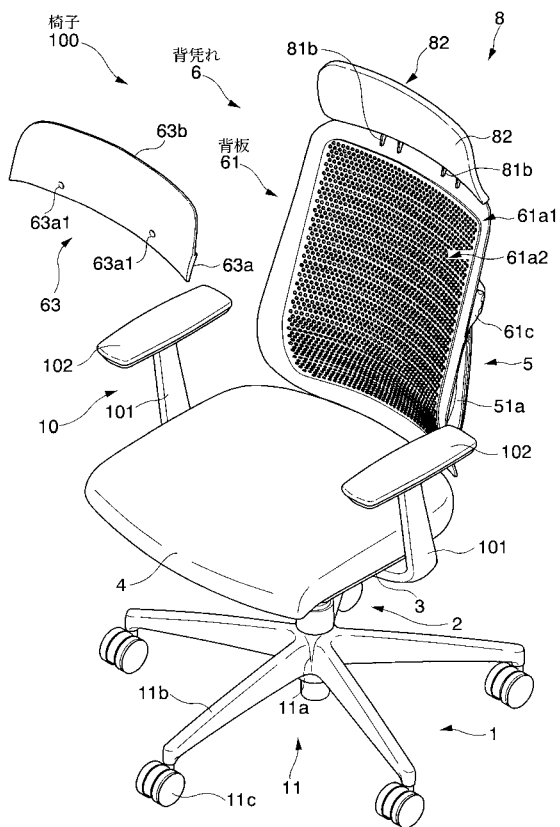
【図 3】



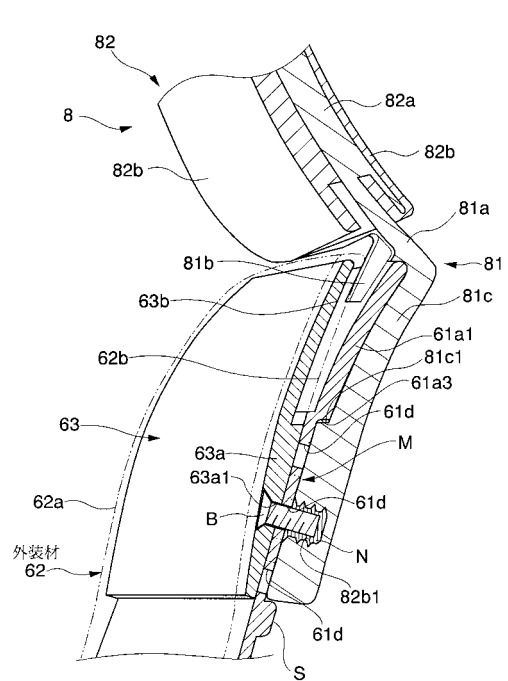
【図 4】



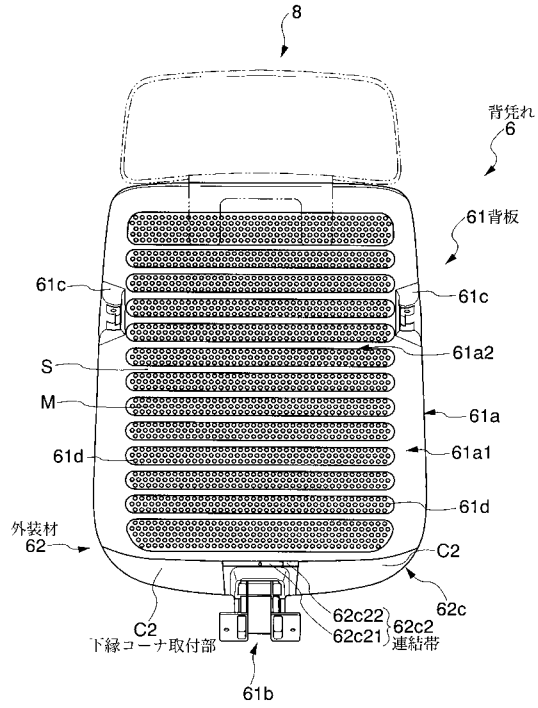
【図 5】



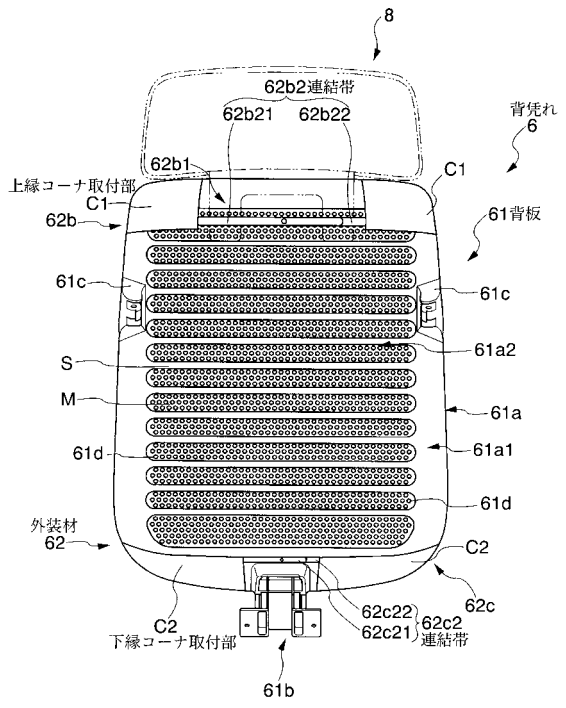
【図 6】



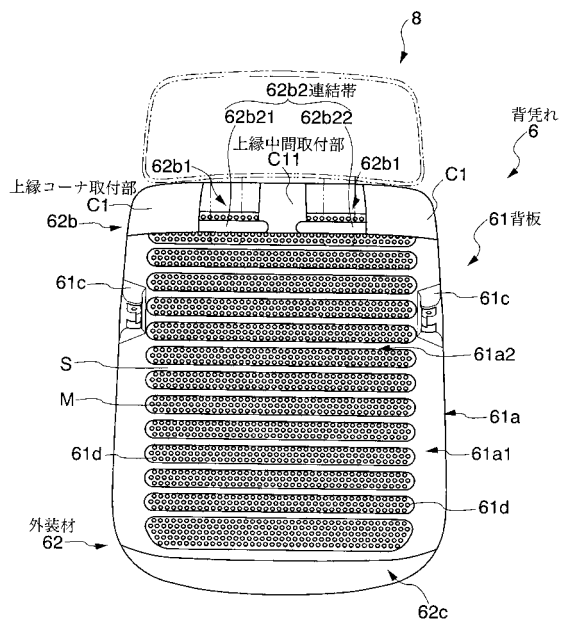
【図 1 1】



【図 1 2】



【図 1 3】



フロントページの続き

- (72)発明者 鈴木 正義
大阪府大阪市東成区大今里南6丁目1番1号 コクヨファニチャー株式会社内
- (72)発明者 登内 武
長野県伊那市西春近下河原5331 タカノ株式会社伊那工場内
- (72)発明者 池田 拓馬
長野県伊那市西春近下河原5331 タカノ株式会社伊那工場内
- (72)発明者 阿部 直登
長野県伊那市西春近下河原5331 タカノ株式会社伊那工場内
- Fターム(参考) 3B084 EA00 EC06